

目次

能力開発工学センター2001年度の活動(2頁)

「本ものの教育」を求めて - 富山「探究クラブ」実践報告(4頁)

巻頭
寸言

「日本の現場労働者の質は世界一」

能力開発工学センター理事 奥田 健二



日産自動車社長カルロス・ゴーン氏は「日産リバイバルプラン」を指導して、同社業績のV字型回復を達成し、敏腕ぶりを発揮したが、そのゴーン氏が述べたという「日本の現場労働者の質は世界一」という言葉が新聞で紹介されていた。ゴーン氏は、労働者の質は世界一だが、経営者や政治家の質は二、三流だと、本心では言いたかったのではないだろうか。それはともかくとして、筆者自身も日本の労働者の質は世界一という確信を持っている。

そこで次の問題は、日本の労働者は如何にして世界一質の高い労働者に育ったのかという問題である。

この点に関して、かつて筆者は日産の技能労働者研修所を訪問し、その優れた技能系社員の教育計画についてうかがったことがあった。主として組み立てラインの技能員の中から少数者を選抜し、最新のコンピュータコントロール技術、ロボット関連技術・その修理法等に関して全員合宿の上で、二年間の集中教育訓練を実施するのである。内容的には三年制の技術専門学校の教修水準に匹敵するということがあった。研修生に課された卒業作品も拝見したが、生産現場に置かれていた旧式の旋盤を見つけだしてきて、各種の制御装置を付け加え、最新の自動旋盤に生まれ変わらせたものであった。その出来映えは素晴らしいものであった。研修修了者たちが配属される部署は旧職場の組立ライン、新車開発部門の試作関連業務、保全修理部門などであり、それぞれ期待された仕事を立派にこなしている。

その研修計画の方法が優れていることはもちろんであるが、この研修計画の根底にある思想・哲学が注目される。最も基本的なことは現場労働者と専門技術者とを区別しない思想である。かつてのように研究とか判断とかは技術者の責任であり、労働者は頭脳を用いない肉体労働に従っていれば良いとする区分の考え方が徹底して否定されている。この非区分の思想によって、労働者たちは精一杯自己の能力を伸ばし、自由に自己表現することができることを自覚するのであり、その結果労働者の質は高度に高まるのである。

浄土真宗における“妙好人” 凡俗の信徒でありながら深い信仰の故に尊敬を受けた篤信者もまた、真宗の「非区分の思想」の下に育てられた。

真宗の創唱者親鸞は、「自分には弟子は一人もいない」といった。すなわち求道者は直接仏と一

発行者 財団法人能力開発工学センター (JADEC)

〒203-0042 東京都東久留米市八幡町 1-1-12 / TEL:0424-73-1261 / FAX:0424-73-1226

E-mail: info@jadec.or.jp ホームページ: <http://www.jadec.or.jp/>

[本誌はJADECセミナー卒業生の会「本ものの教育を考える会(ADE研究会)」の支援により発行しています]

対一で対峙することによって信仰を得ることが出来る。仏の前では全ての人が平等なのだとするのである。そして全ての凡俗の人が、仏の大願によって、信仰を得る可能性を持っており、一人ひとりの信徒が親鸞その他の善知識に助けられることなく、深い信仰に到達することができる主体的存在なのだとするのである。

少数の功德を積んだ僧侶のみが救われるのではなく、市井の凡俗の人でも仏に頼ることによって全て救われるという真宗の教えは、凡俗の人々の心の内奥に秘められていた信仰心をかきたてたのである。かくしてこれら凡俗の信徒の中から“妙好人”と呼ばれる篤信者が輩出されることになったのである。

信徒が講を組織して、比較的少人数の集団を結成し、毎月定例の日に会合し、教団の教祖から講に賜った御文(おふみ)を一同で読み合い、念仏を唱え、時によっては妙好人の説話などに耳を傾けたりする方式も注目に値する。御文というのは、真宗の教理の本筋をわかりやすく和語で書いたものである。この他、親鸞自身が作った和讃も重要な働きをした。和讃の中では、親鸞の主著『教行信証』の内容をわかりやすい和語で、しかも五七五の韻にのった形で表現したものが著名である。信徒はこれらを容易に覚え込むことが出来たのであり、その日常生活の中で楽しみながら唱和したのである。このような色々の方法で、非区分の思想は市井の人々の中に浸透していったのである。

そしてこの非区分の思想は、人々の心を揺すり、奮い立たせたのであり、世界一の質の高い労働者を生み出す根元の力ともなったと言えるだろう。日本の優れた伝統を見失ってはならない。

(アジア経営研究所所長)

J A D E C ・ 2 0 0 1 年度の活動

(事業計画に合わせて進行状況を 印で紹介します)

研究開発活動

1 . I T (情報技術) 教育の研究開発 - 平成 1 1 年から継続

現在、学校教員及び一般市民に対する情報技術に関する能力開発に対する要請が非常な勢いで高まっている。それに応じて以下の研究開発を行う。

- (1) 教員向け情報技術研修のカリキュラム及び教材の研究
- (2) 研修指導者 (市民インストラクターなど) 養成のカリキュラム及び教材の研究
- (3) コンピュータリテラシーの上級レベル教材の研究 (新規)

2 . 製造業現場マンの能力開発に関する研究開発 - 平成 7 年から継続

製造業現場マンの能力開発について、『基礎学習』『実践学習』『現場学習』の 3 段階構成の体系に位置付くものとして、『実践学習』及び『現場学習』段階のカリキュラム開発及び研修実践を行う。

3 . 看護教育の方法・内容に関する研究開発 - 平成 7 年から継続、共同研究

- (1) コミュニケーション能力育成の学習の場のあり方の研究及び教材研究
看護者の課題である上記能力を育成するためのカリキュラム及び学習プログラムを構成し、学習者が主体となって進める行動的学習書として仕上げる。
(注 医歯薬出版(株)から今年度中に刊行の予定)
- (2) 学生の主体的行動姿勢を育てる学習の場のあり方とカリキュラム編成についての実践研究
- (3) 技術の背景となる知識分野の学習のあり方の研究開発

能力開発に関するコンサルテーション活動

1. IT教育に関連するコンサルティング及びセミナー

- (1) 茨城県水海道市内の小中学校における情報教育の推進に関して、その内容、方法、体制など全体にわたり継続して協力する。

7月下旬に教員向け夏季研修(初級・中級・上級 延べ7日)を実施した。昨年同様、できる限り一人ひとりの能力とニーズに合わせて、意欲的に学習してもらうよう準備と指導に力を注いだ。能開センターグループから6人のインストラクタが出張し、指導にあたった。

- (2) 名古屋分室(室長・西澤明) 開発機関ヒューマンホットプランニング(代表・白尾彰浩)などに対し、研修計画、カリキュラム開発、指導者養成などに関して協力する。

2. 製造業現場マンの能力開発システムに関連するコンサルティング及びセミナー

食品製造C社からの依頼で、調査分析(4~5月 管理者の行動分析)及び社員研修(6~7月 現場リーダーの研修)を実施

3. 自動車運転教習所の指導員の指導力向上に関するコンサルティング及びセミナー

8月 打ち合わせ開始

4. 看護学校及び看護教育機関への研修協力

高山市の高山赤十字看護専門学校から、教員及び臨床担当指導者を対象とした研修「主体的に行動する看護者を育てるために」の依頼を受け、8月上旬に能開センターから2名が出張、「人間行動の見方」に重点をおいた研修を実施した。下旬には東京都の看護専門学校から、教員に対する研修の依頼を受けている。

教育指導者の養成

- (1) 能力開発工学の原理と方法に関するセミナー(短期、長期)

- (2) IT教育指導者を対象とした研修 * (1)(2)とも要請に応じて随時実施する。

普及活動

- (1) 「矢口 新選集」(全7巻、頒価6,000円)の頒布

- (2) 能力開発工学紹介ビデオ、コンピュータ学習用ビデオ教材等の普及

- (3) IT学習用テキスト(新規開発)、タイピング教材「ゆうゆうタイピング」等の普及

- (4) 「電気・シーケンス制御入門」等の学習教材の普及

広報活動

- (1) ホームページ(URL <http://www.jadec.or.jp/>)の活用

- (2) 能力開発ニュースの刊行(4回) 8月、10月、12月、3月を予定

- (3) 研究紀要・資料の刊行

<事務局からお願い>

当財団の運営は、現在その約7割を賛助会員及び能力開発研究会員各位からの会費に頼っています。現在の会員は、法人22社、個人2人です。

本年も1社でも2社でもこれの増加をはかるべく努力する所存ですので、よろしくご援助くださいますようお願いいたします。

「本ものの教育」を求めて

北陸A D E 会員 松本 司朗（富山県立富山高等学校教諭）

富山県の教員及び元教員ら A D E 会員によるボランティア活動「探究クラブ」の報告 Part 3 が届きました。松本先生は、クラブ発足以来のインストラクターの一人で、活動を続けることで『総合的学習の時間』を生かして「本ものの教育」を行うためのヒントが得られたとのこと。

1. 「探究クラブ」4年の歩み

平成9年4月より実践してきた「探究クラブ」の活動も4年3ヶ月が過ぎました。富山市の東部児童文化センターを会場として、月2回継続して開催されてきました。その間、延べ50名あまりの子供たちがクラブに参加しました。クラブの運営や教材の制作は、北陸A D Eの先輩方の熱意と努力に支えられてきました。

この実践のねらいは、次の二つです。

子供たちに「科学する心」を育てる

多くの先生方に、学習する子供たちの姿や探究クラブの「学習システム」を見て、体験することにより「本ものの教育」のヒントをつかんでいただく

最近の実践の様子とそこから浮かび上がってきた課題についてお知らせします。



2. 実践の様子から

今年度クラブに参加している子供たちは、小学生9名で4つのグループに分かれて活動しています。1つのグループは1人から3人で能力や経験によって分けられています。中には、クラブ3年目の子供も2名います。インストラクターは、北陸A D Eの会員が1グループに一人ずつ、ついています。教材は、能力開発工学センターで開発された「電気」を題材とした探究のプログラムを使っています。子供たちは、実験・観察、予想、判断、話し合いという行動を通して、探究行動を身につけていきます。



上の写真は、現在行われている実践の様子で、子供たちとインストラクターとの関わりの様子を表しています。子供たち一人一人の、「学習する態度」や「ものの見方や考え方」の違いによって、インストラクターと子供たちとの関わりが異なっています。子供の実態にあわせて子供たちに行動させるようにし向けることがこの学習を進めていく上で重要なことです。このような学

習方法に慣れていない子供たちには、インストラクターが積極的に関わり、ある程度、物の見方・考え方、話し合いの方法等を指導してやる必要があります。子供たちは自然事象を見て自分で学ぶのです。インストラクターが教えると、子供は受け身になって、学習の目標がわからなくなり、意欲の低下につながります。教えすぎないことが、この学習を進めていく上での基本であり、インストラクターが身につけておかないと、学習成果は期待できなくなります。

右の写真は、実験・観察の様子です。子供たちは、自ら進んで意欲的に取り組みます。また、事前に自分なりの予想を立てていると、実験・観察の見方も焦点化され、的確に見えるようになってきます。予想と反する結果がでて、ある程度論理的に考えることができるようになります。

4年間の実践を通して、子供たちが、継続して学習に取り組む、つまり探究できるということは、次のような能力が必要だということがわかってきました。

自然事象を科学的に「見る」ことができる

物事に疑問を持ち、そこから新たな問題を見いだすことができる

問題解決のために、何をどのように調べればよいのかを考え、実験の計画を立てることができる

実験の結果を予想しながら、実験を進めることができる

実験結果をもとに自分の考えをまとめ、新たな問題を発展的に考えることができる

グループ内での自分の考えや知識をもとに話し合いができ、相手の意見により自分の考えを発展させることができる

子供たちに身につけさせる能力のポイントが明らかになり、それに留意しながらインストラクターが子供たちに関わっていくと、時間はかかりますが子供たちの行動は確実に変化していきます。一人一人の子供たちが生き生きとそして楽しく学習を進めて行っています。そして、「探究行動」も確実に育って行っています。

3. 「ゆとりの中で生きる力を育む」ために

「生きる力」のひとつに問題解決能力があります。問題解決能力を育成することが、「生きる力」を育むことにつながります。問題解決のためには、まず、事象から問題を見つけた能力が必要になります。また、問題解決のためには、持っている知識・考え方をどう生かすか、また不足する知識・考え方をどう手に入れるかといった能力も必要になります。そして、その能力を育成するためには、数多くの問題を解決する経験が必要になります。

今回の「電気」を題材とした探究活動を通して、子供たちが「問題解決」の経験を多く積むことができました。しかし、子供一人一人個性があり、抱く興味・関心も異なっているため、すべての子供たちにこの「電気」という素材が適切だとはいえません。ただ、このような学習の考え方や、子供の見方を教師が持ち、教育に携わることによって、子供たちに「生きる力」がついて



くるのだと思われます。教師に問題解決能力がないと、生徒に問題解決能力を身につけさせるのは難しいのではないのでしょうか。子供たちが問題解決能力のような「新たな行動」を獲得するには、個人差もあり、時間を必要とします。「ゆとり」とは、子供たちが自ら「新たな行動」を身につける時間を確保することにつながります。「ゆとり」の時間は、生活の中から見い出したり、作り出すものだと思います。

教育には人間同士の結びつきが必要です。教師に子供たちを見る目があれば、学校での生徒と教師の関係が変わります。教師がこのような目を養うにも時間が必要です。教師に、子供を見て学ぶ姿勢ができてくると、教師と子供の信頼関係ができ、確実に子供たちは変わってきます。

新学習指導要領で新たに取り入れられる「総合的学習の時間」では、子供たちが問題解決のためにどのような「行動」ができるようにするかを考え、適切に「場」の設定をする必要があります。今回の「探究クラブ」の実践は、学校での学習活動で「本ものの教育」を行うためのひとつのヒントを与えてくれたと思っています。

ご利用ください

IT活用能力を育てる行動学習用テキスト

いま全国各地でIT講習が開催されていますが、東京三鷹市のNPO「シニアSOHO普及サロン・三鷹」では、学習者が自分でやりながらつかんでいく行動学習方式のテキストを使った講習を行い、好評を博しています。このテキストは、元当センター職員である白尾彰浩氏（ヒューマン・ホット・プランニング代表）が初心者向けに開発した「ITコミュニティ学習入門」（A5版2分冊）です。能力開発工学センターの監修で、



センターが以前より実践してきたコンピュータリテラシーの考え方をもとに、単に操作の手順を教えるのではなく、イメージを作り、自信がつくように工夫されています。教材は「学習ファイルCD」で添付されています。

本来は、指導者の元での学習を想定して作られたものですが、学校や公民館などに備えて個別学習用に使用することも可能でしょう。

ご希望の方には、能力開発工学センターでお取り次ぎします。

（テキスト 1,500 円、学習ファイル CD 1,000 円、どちらも税・送料別）

●関係ホームページ 三鷹市IT講習の公式サイト <http://www.it.mitaka.ne.jp/it/>

タッチタイピング教材

ゆうゆうタイピング

インターネットや電子メールを使うときには、キーを見ないで打てる（タッチタイピング）と便利です。わずか6時間でマスターできる教材「ゆうゆうタイピング」を思い出してください。

これは10年以上前に、NECソフト(株)からの委託で、能力開発工学センターが開発したのですが、このほどDOS/V対応に改訂され、より使いやすくなりました。

こちらも能力開発工学センターでお取次ぎします（5,800円<税・送料別>）。

●関係ホームページ <http://www.necsoft.com/soft/edusoft/yuyu/>

編集後記

今問題の扶桑社刊の「新しい歴史教科書」を読んでみました。一番気になるのは、一方的で断定的な叙述の仕方です。どうしてそう言えるのか、なぜ著者がそう考えるのか、その根拠が明示されていないこと。これでは、自分で考える力は育つまい、と心配になりました。

富山の松本先生から、子供たちが楽しく電気を探究しているとの報告、このような探究的な学習を歴史の学習でも実現したいものです（お）